

ひっそりと咲くスミレ (4月の自然庭園では) ～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは大宮南部浄化センター(みぬま見聞館)のトピックスを紹介をします。

ひっそりと咲くスミレ(4月に自然庭園で観察できる動植物について)

今回はこの時期、庭園でひっそりと咲く可愛いお花「スミレ」をご紹介します。スミレは私たちに馴染みの深い花で、古くは万葉集の歌の中にも出てきますし、江戸時代の俳人松尾芭蕉も野辺のスミレを詠っています。今でも道の片隅や草陰にひっそりと咲く姿は、清楚や気品が感じられ謙虚や誠実というスミレの花言葉にも通じていますし、そのイメージから女性の名前として名付けられるほど馴染みのある花でもあります。このスミレは日本では50～60種類あると言われ、より細かに分類すると園芸用の品種改良品を含めて200種類以上もあるそうです。それだけに名前を特定するのはなかなか大変で、花の色や大きさはもちろん葉の形やスミレ独特の距(きょ)という花の後ろに突き出した部分の特徴、茎につく毛の付き方など細かな観察が必要とされます。あまりにも種類が多いので総称してスミレと一言で代表してしまいがちですが、スミレもスミレ科スミレ属の植物の一つの名前ですので覚えていて下さい。

自然庭園ではすでに2月後半には落ち葉の下に小さな葉をつけたスミレが確認でき、3月の中旬にはタチツボスミレやコスミレの花が咲きました。他にもヒメスミレ、アオイスミレ、アリアケスミレなども葉を大きくして花を咲かす準備をしています。

さわやかな風が吹き抜ける庭園でぜひ可憐な姿を探してみてください。皆様のお越しをお待ちしています！



タチツボスミレ



コスミレ



ヒメスミレ



アオイスミレ



アリアケスミレ

チョウの幼虫は偏食?! (5月の自然庭園では) ～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは[大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）](#)のトピックスを紹介をします。

チョウの幼虫は偏食?! (5月に自然庭園で観察できる動植物について)

穏やかな気候ではありますが、陽ざしの強さも感じられる季節となってきました。

この時期、庭園内では、シロヤマブキ、ウツギ、ガマズミ、エゴノキ、そして草地ゾーン周辺にイボタノキ、エゴノキと多くの木々が花を咲かせます。さらにこれらの花の蜜を求め、チョウが飛来します。

今月は、チョウと植物を紹介します。通常は、チョウを見たいと思ったときには、花の咲いている花壇、花畑に足を運びます。そこでは、いろいろなチョウに出会えます。しかし、特定のチョウに出会いたいときには、そのチョウの幼虫が食べる植物を探して見つけるという方法があります。

チョウの幼虫が食べる植物を、食べる草と書いて食草、または、食べる樹の食樹といいます。幼虫は、かなりの偏食家で、食べる葉っぱの種類が決まっています。成虫はその植物に産卵します。そのため、その植物を見つければ特定のチョウと出会う確率は高くなります。もしチョウがすぐに見つけられなくとも、幼虫、さなぎに出会えると確率はさらに高くなります。

庭園内における食草・食樹とチョウの組み合わせは、クスノキとアオスジアゲハ、セリとキアゲハ、スイバ・ギシギシとベニシジミ、フジ・ハギとルリシジミなどがあります。

そのほかに庭園内では、モンシロチョウ、ナミアゲハのほかモンキチョウ、クロアゲハ、ナガサキアゲハ、コムシジ、ヒメウラナミジャンメヤ樹液を求めて飛来するキタテハ、ルリタテハなどのチョウも見られます。

なお、日本の国蝶であるオオムラサキの幼虫は、エノキの葉っぱを食べます。今の時期は、幼虫で、6月になると、美しい羽根を持つオオムラサキに羽化します。しかし、オオムラサキについては、貴重なチョウであり、保護されているところ以外では見られないのが実情です。

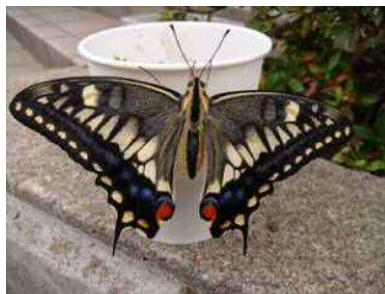
庭園では、ミヤコグサ、ホウチャクソウ、ヘビイチゴなどのいろいろな花も見られ、チョウと合わせて観察できます。ぜひ、みなさんと自然庭園にお越しください！



アオスジアゲハ
幼虫の食草クスノキの葉にとまっています



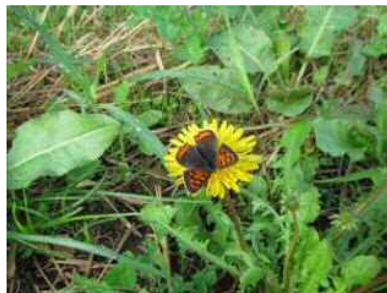
羽化したばかりのナガサキアゲハ
幼虫の食草柑橘系の木の葉にとまっています



キアゲハ



キアゲハの幼虫
食草のセリにいます



ベニシジミ
タンポポの花にとまっています



ギシギシ
ベニシジミの幼虫の食草です



キタテハ
ウツギの花にとまっています



カナムグラ
キタテハの幼虫の食草です



ルリタテハ
ベニカナメの葉にとまっています



ホトトギス
ルリタテハの幼虫の食草です

カタツムリは雨が嫌い!?(6月の自然庭園では) ～みぬま見聞館トピックス

[このページを印刷する](#)

このページでは[大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）](#)のトピックスを紹介をします。

カタツムリは雨が嫌い!?(6月に自然庭園で観察できる動植物について)

6月といえば梅雨。梅雨といえば雨。雨といえば目に浮かぶのがアジサイとカタツムリ。こんな連想をする方も多いかと思いますが、今日はそのカタツムリのお話をしたいと思います。

確かにこの雨の季節になると目に触れることが多くなるカタツムリですが、それもそのはず、ご先祖様は海にいる巻貝の仲間なのです。そう言われれば殻の形やゆっくり歩く姿は貝に似ていて、水とカタツムリは切っても切れない関係というのも納得できますね。

さてそのカタツムリですが、本当は雨が嫌い、ということをご存知でしたか？

えっ、と思われませんか。嫌いというのは少々大げさですが、カタツムリは湿度を好むのであって、大雨が降り長時間水没してしまうと、肺呼吸と同じような機能を持つ肺類の彼らは呼吸ができず溺れて死んでしまうこともあり、危険を避けるため雨の時は地面より高いところを選んで避難するそうです。それを見た私たちは葉の上で雨を楽しんでいると想像して、うっとり梅雨時のアイドルにしたのかもしれませんが。巻貝を先祖にもつ彼らは体をまもるため湿度はどうしても必要ですが、大雨は避けたいのが本音なのでしょうね。

自然庭園ではカタツムリと同じように梅雨のヒーローアマガエルの鳴き声も聞こえて来ます。

深い緑ですっかり覆われた林の中では庭園の夏の主人公である昆虫たちが次々と姿を現しています。

職員が大切に保護しているオオムラサキは6月4日に今年最初の1頭が羽化し、美しい羽根を見せてくれました。

ホタルの幼虫も既にさなぎになっています。羽化が待ち遠しいですね。

成虫の観察ができるようになりましたらホームページ等でご案内しますので楽しみにしていて下さい。是非自然庭園でこの季節の生き物と触れ合ってみませんか。皆様のお越しをお待ちしています！



ヤマアジサイ



カタツムリ



角を出したカタツムリ



ニホンアマガエル

身近なランの仲間「ネジバナ」 (7月の自然庭園では) ～みぬま見聞館ト
ピックス～

このページを印刷する

このページでは[大宮南部浄化センター \(みぬま見聞館\)](#)のトピックスを紹介をします。

身近なランの仲間「ネジバナ」(7月に自然庭園で観察できる動植物について)

7月は、例年なら梅雨後半の雨から暑い夏を迎える月になりますが、今年に限ってはもう梅雨が明け、太陽の日差しがまぶしく、気温の高い日々が続いています。

今月は、とても身近なランの仲間の「ネジバナ」を紹介します。

ランの仲間は、人の生活する身近な場所では、見ることができないものも多く、日本在来種で芝地、公園、土手などで見かけるネジバナは、古くから愛され親しまれてきたランの一種です。

庭園内では、見聞館前広場他、いたるところで見つけられますが、他のランと同様に同じ場所では安定的に見られない状況で昨年とは、生育する場所が変わります。このほかにランの仲間では、シュンラン、エビネが庭園内では見られます。

花の時期は、6～7月でピンクから白の濃淡のある小さな花が咲きます。小さいけれど、よく見るとカトレアのような雰囲気があり、ランの仲間であることがわかります。この花が、茎にらせん状について、まるで花の穂がねじれているかのようです。らせん状に咲いているため、どの方向からでも花が正面から鑑賞できます。また、花の蜜をもとめて集まる虫たちにとっても、どの方向からでも花にたどり着くことができます。名前の由来もそこから来ています。ネジバナの穂のねじれかたは、株により差があります。朝顔のつるは、右巻きと決まっていますが、ネジバナの場合は、左巻き、右巻きどちらも存在します。巻きの強さも様々であり、ほとんど巻くことなく一直線に穂がならぶものも見られます。

ネジバナを見つけたら、可憐な花とともにらせん状となる穂の並びかたを鑑賞するのもこの花の楽しみかたです。

このほかにも、ミソハギ、ガガイモ、ヤブカンゾウ、ヒヨドリバナ、ムラサキツメクサ（アカツメクサ）、アカバナユウゲショウなどの花やコガマ、ヒメガマも観賞できます。ぜひ、一度、自然庭園の散策にお越しください。。ぜひ、みなさんと自然庭園にお越しください！



ネジバナ

らせん状に小さな花が咲く様子がよくわかります



ネジバナ

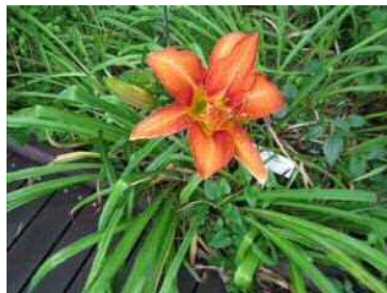
ほぼ白い花が咲いたものです



ミソハギ



ガガイモ



ヤブカンゾウ



ヒヨドリバナ



ムラサキツメクサ(アカツメクサ)



アカバナユウゲショウ



コガマ

みぬま見聞館の屋上庭園のものです

セミの鳴き声 (8月の自然庭園では) ～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは大宮南部浄化センター(みぬま見聞館)のトピックスを紹介をします。

セミの鳴き声(8月に自然庭園で観察できる動植物について)

今年も暑い夏がやって来ました。当センターの自然庭園でも夏の代名詞である「蝉しぐれ」という表現がピッタリな程のセミの鳴き声が今年も聞こえています。

最近はその声が「うるさい」とか「うっとおしい」とか「暑苦しい」などと、昔ほど好意的な目で見てもらえないようで、蝉の鳴き声を岩に染み入るといふ表現で静寂を表した松尾芭蕉が聞いたら、少し寂しさを覚えるのではないのでしょうか。しかしここ自然庭園の蝉たちは何の遠慮があるもんか、とばかりに元気な声で鳴いています。

ところでセミはどうして鳴くのでしょうか?いろいろ調べてみますと、鳴くのはセミのオスだけということで、鳴く行為はメスに対する求愛行為ということのようです。メスに「僕はここにいるよ、気づいてね。」と必死に自分をアピールするために声をあげている姿なんだそうです。

よく知られていることですが、セミは幼虫期に地中に長くいて成虫になってからは1週間くらいしか生きられないという「薄命な昆虫」の印象があります。実際にはもっと長生きで3週間から1か月くらい生きるそうですが、17年蝉のような例もあり、長く地中にいてやっと成虫になってからは非常に短い一生という印象です。そう思うとそのわずかな期間に子孫を残すため自分のパートナーを必死になって探すオスの姿は、何となく愛おしく思えるのではないのでしょうか。まるで自分の命の短さを知っているかのような鳴き声にも聞こえて来ませんか。

昆虫の中でも攻撃や防御手段を持たないセミは、地中ではモグラやオケラに、成虫になっても鳥やカマキリ、ハチ、カエルなどから生き延びなくてはなりません。捕まったらなすすべもなく餌食になってしまうのです。捕まえられそうになった瞬間おしっこを顔にひっかけて逃げるのが精一杯の抵抗だとしたら、求愛に一生懸命に鳴くセミの声を少しは余裕をもって聞いてあげられるのではないのでしょうか。

自然庭園では今日も声をからして鳴いています。ここだけでも思い切り鳴かせてあげたいと思っています。今はアブラゼミが主に鳴いていますが、そのうちツクツクボウシやミンミンゼミ、ヒグラシなども木立の中から聞こえて来でしょう。蝉の聞き分けを楽しむのも自然観察の楽しみの一つですので、暑い盛りですが涼しい時間を選んで是非自然庭園にいらして下さい。お待ちしております。



アブラゼミ



アブラゼミ



セミの抜け殻



セミの抜け殻



オオカマキリに捕食されるアブラセミ



オオカマキリに捕食されるセミ



ツクツクボウシ



ミンミンゼミ

タヌキとイタチ、庭園に現る！（9月の自然庭園では）～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは[大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）](#)のトピックスを紹介をします。

タヌキとイタチ、庭園に現る！（9月に自然庭園で観察できる動植物について）

猛暑が続き、9月に入ってもまだまだ残暑が厳しいですが、夕方になると、少しは涼しさが感じられるようになり、庭園内においてもアキアカネが群れをなして飛びまわる季節となりました。

さて、今月は、庭園に現れる動物を紹介します。小動物のタヌキとイタチです。

タヌキは、人里近くでも見かけられた、古くから親しまれているイヌ科の野生動物で、昔話やことわざにも頻りに登場します。食性は、雑食性で果実、葉っぱ、種子から昆虫、魚類、鳥類、カエル、ザリガニまで食べます。また、オスメスつがいでの行動が群れの単位です。

イタチは、イタチ科に属する尾の長い小柄な体形で、危険を感じると肛門腺から臭い液を分泌するといわれています。指の間に水かきがあり、泳ぐのが得意で、ネズミや昆虫のほか、魚、ザリガニなどを捕食します。

どちらも住み家はどこにあるのかはわかりませんが、園内でその姿が確認されています。今年7月中旬のある日には、園内の木の下でタヌキの死骸も見つかりました。しかし、翌週には別のタヌキが、通路を横断している姿が見られ、その後も何度か確認されました。タヌキは家族で暮らす習性があり、先日亡くなったタヌキの子供ではないかと思われます。また、イタチは、園内の木道の下に潜んで、時おり、顔を出し行動している姿が見られています。

秋は、これらの動物にとって、子供が成長し親離れを迎える時期です。

自然庭園に訪れた際に、タヌキまたはイタチを見ることができるのは、まれですが、これらの動物の生活できる自然環境が庭園にはあります。バッタ、トンボなどの昆虫や鳥が動き回り、花を咲かせ、実をつける草花が育っています。

自然庭園を訪れた際は、暑い夏から続いて、黄色の花を咲かせているセイヨウミヤコグサや、朝方に鮮やかな青い花を咲かせるツクサなども観察してみてください。



自然庭園に現れたタヌキ
庭園の入り口に近いところにいました



タヌキは仲間を探しているようで
人間をあまり気にしていない様子でした



イタチ
水辺で見られました



イタチ
こちらはなかなか近づけませんでした

自然庭園の秋の实り (10月の自然庭園では) ～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは[大宮南部浄化センター \(みぬま見聞館\)](#)のトピックスを紹介をします。

自然庭園の秋の实り(10月に自然庭園で観察できる動植物について)

10月になり自然庭園もだいが秋めいてきました。賑やかだった蝉の声もいつしか消えて、今は草むらからコオロギなどの虫の音が聞こえて来ます。木や草も秋の装いを始めていて、紅葉し始めた葉に隠れて赤や白や黒い実をいつの間にか実らせています。今日はそんな樹木の実をいくつか紹介しましょう。

庭園を歩いて先ず目につくのが、赤い色をしたゴンズイやガズミ、サンシュユなどの実です。ゴンズイは赤く熟した果皮の中に黒い実があり赤と黒のコントラストが鮮やかです。ガズミは3ミリから5ミリくらいの小さな赤い実を多数つけ、酸味があって食用になることから人間にも好まれます。サンシュユは鮮やかな黄色い花で早春を飾り、秋は光沢のあるグミのような赤い実で私たちを楽しませてくれます。サンシュユはその赤い実をサンゴに例えて別名アキサンゴと呼ばれています。赤い色は鳥が好む色だと言われていますが、人間も赤い色に心が奪われますね。

白い実はエゴノキの実です。正確に言うとは白ではなく薄緑をしています、他の緑の濃い葉と比べると白く見えます。よく知られていることですが、界面活性作用のあるサポニンという物質を含んでいることから、実を潰して石鹸の代用として使われた時代もあったそうです。たくさんの白い実が枝から垂れさがって並んでいる様子は可愛いですよ。

シロヤマブキの実も黒い色をしています。黄色い花のヤマブキとは異なり白い花が咲くことからシロヤマブキと名付けられましたが、光沢のある黒光りという表現がぴったりな小さな黒い実をつけます。

そのほか紫色のコムラサキや和菓子や落雁のような優しい色合いを持つコブシの実も色を楽しむことができます。また目立つ色ではないですが、クヌギやコナラ、スダジイやシラカシなどのいわゆるドングリの木も、いまたくさんの実をつけています。

自然庭園内では採取及び持ち帰りは禁止ですが、いろいろな種類の木の実を拾い館内にある図書で違いを調べてみるのも楽しいと思います。自然庭園の秋を是非探しに来て下さい。お待ちしております。



秋のゴンズイ



ゴンズイの実



ガズミの実



サンシュユの実



シロヤマブキの実



エゴノキの実



コムラサキの実



コブシの実



クヌギの Donguri



シラカシの Donguri

カワセミの羽毛の秘密 (11月の自然庭園では) ～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは[大宮南部浄化センター \(みぬま見聞館\)](#)のトピックスを紹介をします。

カワセミの羽毛の秘密(11月に自然庭園で観察できる動植物について)

秋も深まりつつあります。11月になると、落葉樹の紅葉や樹木の実を観察する機会のほうが多くなります。今月は、木の葉が落葉し、観察できる機会の増える鳥、カワセミを紹介します。

カワセミは、スズメほどの体の大きさに長いくちばしを持ち、川や池、湖などの水辺に生息している鳥です。特徴となる長いくちばしは、500系と呼ばれる新幹線の形状のヒントになったといわれています。また、カワセミブルーと言われる美しい色の鳥として、人気のある鳥でもあります。

カワセミは、どうして美しく見えるのでしょうか。カワセミの体色の見せ方には特徴があり、美しく見えるのは、羽毛に秘密があります。シャボン玉の表面のように、光の加減で青っぽく見えたり緑っぽく見えたりして、頭、尾、背中、翼など、緑色から水色までいろいろな色に見え、胸の橙色との配色がきれいで、全体として美しく見えるわけです。

カワセミのエサは、水辺の小魚、虫、ザリガニなどです。そのエサの取り方は、水辺の木の枝から水中に飛び込んでエサを捕まえます。空中に停止するホバリングを使ってエサを狙うこともあります。

庭園内に暮らすカワセミは、庭園に訪れるサギと同様にモツゴ、タモロコのような池に住む魚やザリガニをエサとしているようです。庭園を訪れた際、運が良ければ、池の水面へ伸びる葉の落ちた枝からエサを狙う姿や、空中を直線的に飛ぶカワセミの姿が見られます。

冬の足音がもう間近な季節となってきました。オカヨシガモやコガモなどの冬鳥も渡ってきます。また、庭園には、他にもイロハモミジ、コナラ、メグスリノキ、ハウチワカエデなど紅葉する樹木も多くあります。

鳥の観察や紅葉の鑑賞に、ぜひ自然庭園を訪れてください。



振り返る「カワセミ」



遠くを望む「カワセミ」
艶やかな背中が良く見えました！



2羽の「カワセミ」



「カワセミ」
自然庭園に現れます！

自然庭園のシンボルツリー、ケヤキ (12月の自然庭園では) ～みぬま見聞館
トピックス～

このページを印刷する

このページでは[大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）](#)のトピックスを紹介をします。

自然庭園のシンボルツリー、ケヤキ(12月に自然庭園で観察できる動植物について)

もうすぐ12月。木枯らしが吹く季節になりましたね。自然庭園も静かに冬の準備を始めています。今日はそんな庭園の中で篝（ほおき）を逆さにしたような樹形をもつケヤキについてお話します。

埼玉県の大宮であり、さいたま市の木でもあるように広く私たちの目に触れる樹木で、中でも日本一長いケヤキ通りとして有名な埼玉大通りの並木や、桜区大久保の大ケヤキ、西区清河寺の大ケヤキや新都心の大ケヤキ広場など、身近な樹木として多くの市民に親しまれているのは皆さんもご存知のことかと思えます。

自然庭園にも開設当初から庭園の移り変わりを眺めてきた高さ20メートルほどの大きなケヤキの木があります。

庭園の入り口のコナラやヌルデ、ハンノキに囲まれた一角にあり、ケヤキの特徴である枝を大きく広げた樹形は、庭園のシンボルでもありました。今は周りの木も高く成長して、その姿は以前ほど目立たなくなりましたが、まだまだ自然庭園の主（あるじ）の雰囲気を持っています。

ケヤキも秋になると実を落とします。クヌギやシラカシなどのいわゆるドングリのような目立つ実ではありませんが、2～3ミリの小さな実をつけます。ただ他の木と違う特徴をもっていて、単独で落下する実と枝葉を付けたまま落下する実があります。これを実がつく枝と書いて着果枝（ちゃくかし）と言い、葉は他の葉より小型です。葉をつけたまま実を落とす仕組みは、風などの影響を受けより遠くへ運んでもらうための工夫ではないかと考えられていますが、なぜ二種類あるのか詳しい事は分かっていません。また枝などを剪定されたケヤキはこのような実は付けないそうで、剪定によって命の危機を感じた樹木自体が樹木の生存を優先するため子孫を残す余裕がなくなるので、そうするのではないかと考えられているそうです。自然界の仕組みって面白いですね。

ケヤキは若いうちは枝を篝（ほおき）のように空高く広げ勢いを感じますが、剪定されないケヤキは年老いてくると樹形全体が丸みを帯びてくるそうです。自然庭園のケヤキは樹齢20年そこそこです。ケヤキの寿命は長いもので1000年を超え、数百年のケヤキも全国には多数あり、これらと比較するとまだまだ生まれたばかりの幼木です。そう思うと枝を広げた姿は幼児が万歳をしているように見えてきます。

庭園では葉を落とした木々が冬を待っています。暖かい日を選んで庭園を散歩してみたいかですか。皆様のお越しをお待ちしています！



紅葉するケヤキ



落葉し樹形がよくわかるケヤキ



ケヤキの実



ケヤキの実、角度を変えて



ケヤキの着果枝(ちやくかし)



ケヤキの着果枝の実

ナンテンの赤い実 (1月の自然庭園では) ～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは [大宮南部浄化センター「みぬま見聞館」](#) のトピックスを紹介します。

ナンテンの赤い実(1月に自然庭園で観察できる動植物について)

暖冬といわれていますが、もっとも寒い時期となってきました。自然庭園は、木々の葉が落ち、花も少なくなり、静かな季節となりました。今月は、この時期になると赤い実を突らせ、お正月の飾りなどにも用いられ親しまれている「ナンテン」を紹介します。

ナンテンという名前は、「鈴を転じる」につながることから縁起の良い木とされ、家庭でも玄関先や庭などに植えられてきました。ナンテンは、中国や日本が原産の常緑低木であり、夏に白い花を咲かせ、冬になると真っ赤な果実をつけます。色彩の少ない冬場に見る赤い果実は、周囲とのコントラストが際立ち、すぐに見つけられます。

園内では、自然庭園入口付近とサンクチュアリに何本か生育しております。

自然庭園入口付近のナンテンの周りには、この季節、ナンテンと同じように、小さな白い花から赤い実をつける、小低木のマンリョウ、センリョウも生育しています。名前からも想像できますが、こちらも縁起のよい木とされています。

木の葉の少なくなったこの時期には、野鳥がこれらの貴重な木の葉をついばみに訪れます。ナンテンには、ヒヨドリ、オナガ、ジョウビタキ、ツグミなどの野鳥がその実を食べに集まります。また、これらの実を鳥がついばむことにより、種子が拡散し芽生え、生育し、新たな森や林を構成し、鳥や昆虫たちが集まり、食物連鎖もいっしょに進み、動植物にとっても、縁起がいいのかもしれない。

庭園では、このほか、夏假、冬芽など表情豊かな樹木の姿も見られます。十分な防寒の備えをしてお楽しみください。



ナンテンとその白い花



ナンテンの花
真っ白でキレイです



ナンテンの赤い実
残りわずかとなりました



ナンテン
赤い実は既に食べられたようです



マンリョウとその赤い実



センリョウ

自然庭園の池の水ぜんぶ抜く?!(2月に自然庭園で観察できる動植物について)

2月、すっかり葉を落とした木々の間を、冷たい北風が吹き抜けていきます。時折波打つ風にあおられた枝先から、風を切る乾いた音が聞こえて来ると思わず身震いしてしまいます。

そんな寒い時期の自然庭園ですが、乾燥し天気の良い日が続くこの時期に合わせて、池のかいぼりを今年も1月から行っています。数年前に一度行い昨年は二つの池のうち一つしか確認できなかったため、今年は全ての水を抜くことにしました。かいぼりは池の生態の確認と沈んだヘドロの除去が主な作業ですが、ウシガエルやカダヤシなどの特定外来種を含む外来生物の捕獲も目的の一つとしています。

本来、自然庭園にいないはずの生き物が発見されることもあります。これは誰かが無責任に放流したのかもしれませんが。飼育する生き物を自然に放流するようなことは決してしないようお願いしたいと思います。

水位が下がると日常見られない鳥たちの生態を見ることが出来ます。コサギやダイサギが早速やって来て、池の底にいるドジョウやザリガニ探しに夢中になっています。食糧確保が厳しいこの時期に格好の餌場が突然出現した訳ですから、彼らも必死になってその場を離れようとしません。私たちが近づくと逃げますが、すぐに戻ってきます。また縄張り争いなのかコサギ同士で羽根を広げ相手を威嚇しあう姿も見られます。

当施設は中学生の職場体験事業である「未来くるワーク」の対象事業所ということもあり、毎年近隣の中学校から生徒さんを受け入れて作業を体験してもらっているのですが、今年はこのかいぼりのお手伝いをしていただきました。胸まである長い長靴を着て池の生き物を悪戦苦闘しながら捕獲してもらいましたが、良い経験になったことでしょう。

水を張るとまたいつもの静かな自然庭園に戻ります。そして木や草はすぐそこにある春の準備をしています。季節の変わり目の自然庭園は日ごとの変化で私たちを楽しませてくれます。

暖かい日を選んで是非お越しください。皆様のお越しをお待ちしています！



かいぼり・生物調査中(木崎中の生徒さん)



かいぼり・生物調査中(第二東中・大原中の生徒さん)



頑張った証です！



生物調査のあと、舞い降りたコサギ
エサ探しに夢中で、間近で見ることができました！

春を告げる木、コブシ (3月の自然庭園では) ～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは[大宮南部浄化センター \(みぬま見聞館\)](#)のトピックスを紹介をします。

春を告げる木、コブシ(3月に自然庭園で観察できる動植物について)

日々、陽ざしの温かさが少しずつ感じられる時期となってきました。自然庭園においても、この暖かさに伴い、多くの植物、生き物が観察できるようになりました。

今月は、サクラより先に大きな花を咲かせ、春を告げる木とされるコブシを紹介します。

コブシは、モクレン科モクレン属の落葉広葉樹で丘陵、山地に生える高さ15m以上にも成長する樹木です。早春には、6枚の花弁を持つ大きな白い花を、葉のない枝に咲かせます。花には、香りがあり、花をたくさんつけた様子は、遠くからでも目立ち、人目を惹きます。

北国では、コブシの開花は、農作業を始めるための目じるしにもなります。

自然庭園内においては、あずまや前や西側西門近くに生育し、花を咲かせています。花が咲く前の冬芽は、毛むくじらの芽鱗(がりん)に包まれ、あたたかな毛皮のコートを着ているようです。

なお、コブシの名前の由来は、花の咲いた後の実の形がごつごつしており、こぶしに似ていることからといわれています。

この他、庭園には、コブシと同じようにサンシュユ、アンズも葉のない枝に花だけを咲かせています。また、若葉といっしょに花を咲かせるボケ、ユスラウメ、ユキヤナギなども生育しています。足元をみれば、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、オオイヌノフグリなどの草花が、春を感じさせます。

たくさんの花の咲き誇るこれからの季節、みなさんで自然庭園にお越しください。



コブシの花の咲いた様子



コブシの花



コブシの冬芽
あたたかさそうです



コブシの実
名前の由来となっています



サンシュユの花



アンズの花



ボケの花



ユスラウメの花



ユキヤナギの花の咲く様子



ユキヤナギの花



ヒメオドリコソウ



オオイヌノフグリ